

GARDEN TOWN OFFICE

みんなが集まる「大きな庭のある庁舎」

新庁舎を中心に再形成される「設楽町」の創造に相応しい人々が集い、住民・行政・議会が一体となるまちづくりを促進する新庁舎を計画します。



東側からの外観イメージ



南側からの鳥瞰イメージ

基本コンセプト5つのテーマ

象徴的な建物とわかりやすい空間

- 庁舎の議会棟を本庁舎の東側に、交流施設としての子供達の図書館・町立児童館を南西面に配します。
- 施設全体をL字型の配置構成とし、L型凹部の南東部に防災広場としての憩いの庭園を配し、町民に愛され、人の集まる施設を目指します。

自然と対話できる庭園の提案

- 本庁舎棟南側の庭園には、シンボルツリーとビオトープを中心として、町の花シャクナゲや、町の木エノキを取入れた防災広場を兼ねた憩いの庭園（ガーデン）を配置します。
- 図書館の屋外閲覧利用のテラスや、庁舎中庭と連携させたGARDEN TOWN OFFICEとしています。

多世代交流を意識した総合センター

- 触れ合いや交流を軸とした施設を目指し、子供達が利用する町立児童館（子育て支援センター）と町立図書館を隣接し一体化させ、庁舎との連携を保ち、町民に優しいGARDEN TOWN OFFICEとしての、利便性を重視した構成の提案をします。

地元林業に配慮した環境共生型の庁舎

- 施設の前面には、4mの縁側の空間を設け、自然環境を利用した通風、採光に配慮した計画とします。
- 庭園との連続性を考慮し、リニアな触れ合い広場とします。
- 周辺環境と地元林業を考慮し、柱梁共全構造を木造の大断面集成材で構成します。

機能性と公共性を考慮した空間構成

- 施設全体の平屋構成をやめて、町長室など管理的な機能を2階に移し、無駄に広がりのある平面構成から、機能的な2階構成としています。
- 2階部分は柱梁の木造に床面をデッキ+コンクリートによる工法を採用し、床の振動・音に配慮した構法とします。

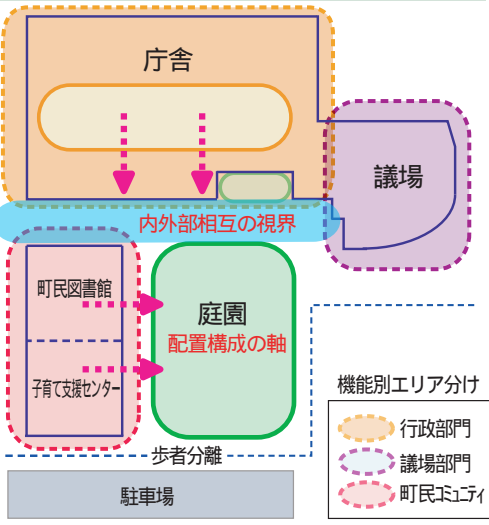
土地利用・配置計画

●立地条件を活かし、機能性を重視した施設配置

- 敷地の有効活用を目指し、各エリア機能を分割します。
- 敷地の中央に大きな防災拠点としての庭園を設け、配置構成の軸とします。
- 庁舎内部からも敷地を見渡せるよう考慮します。

●安全性と利便性を考慮した外部車両動線

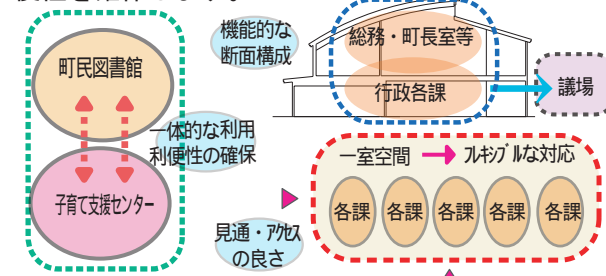
- 来客駐車場は南側にまとめ、歩車道を分離動線を計画し、平日休日における行政サービスの安全性、利便性を確保します。
- 構内車両動線は行止まりを避けた回遊式対面通行とします。



建物のゾーニング計画

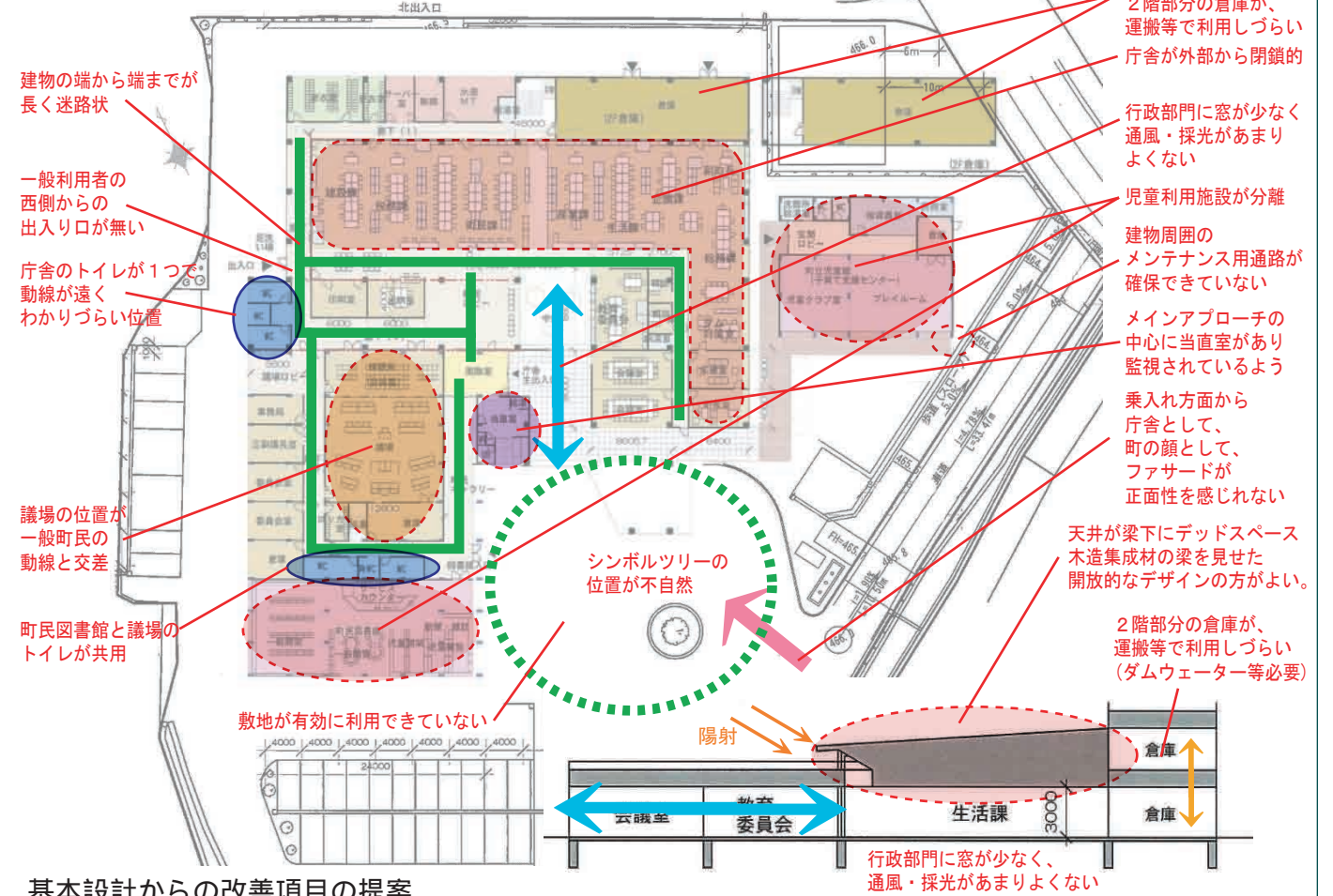
●親近感と連帯感を重視した庁舎の全体構成

- 来庁者にわかりやすく、職員が働きやすい機能優先の平面・断面構成とし、両端部は見通しのよい開放的空間を基本構成とします。
- 庁舎中央部は組織の改編や執務の高度情報化に柔軟に対応できるように一室空間とします。
- 子供利用が多い図書館と児童館は隣接させ、利便性を確保します。



基本構想・基本設計に対する追加又は修正の提案

設楽庁舎 基本設計を再考案



基本設計からの改善項目の提案

基本設計のデメリットとして…

A：ゾーニング計画

- 町立児童館や町民図書館など、子供達の集う施設が分離している。
- 当直室がメインアプローチの中心にあり、監視されているよう。
- 2階部分倉庫が、運搬等で利用しづらい。（ダムウェーター等必要）
- 会議室、打合室が少ない。
- 施設全体が平屋建の為、間のびし敷地全体が有効に利用できない。
- 建物周囲のメンテナンス通路が確保できていない

B：動線計画

- 町民図書館と議場のトイレが共用で動線が交差している。
- 庁舎用トイレが1つに集約されており、動線が遠く不便。
- すべての施設がワンフロアの為、建物の端から端まで長く、全体的に動線が迷路状である。
- 一般町民の動線と議場の位置が交差し、混乱を招く。
- 施設周辺の町民が利用するの庁舎への西側からの出入り口が無い。

C：意匠計画

- 来庁者用ロビーなど、開かれていないはずの庁舎が閉鎖的である。
- 行政部門に窓が少なく、通風・採光があまりよくない。
- 大断面集成材を使っているにもかかわらず天井が梁下にあり、デッドスペースがある。集成材の梁を見せたデザインの方がよい。
- 建物屋根のデザインのバランスがよくない。また軒の出が少なく、外壁のメンテナンスが悪い。
- シンボルツリーの位置が不自然。

基本設計からの留意点として

A：ゾーニング計画

- 一般の来庁者や町職員の利便性、世代別の利用用途を考慮すること。
- 単純明快なゾーニング計画を心がけ、わかりやすい施設計画とすること。

B：動線計画

- 職員と議員、一般来庁者の動線が交差しない。
- 簡潔な動線と幅員の確保、移動距離の考慮。

C：意匠計画

- 開放的な庁舎、開放的な空間。
- 自然採光、自然通風の考慮。
- 町民に親しまれるしくみ、デザイン要素。

改善方法として

- ◆児童の利用頻度が多い部分はまとめて配置
- ◆庁舎と町民を繋ぐ防災広場を兼ねた庭園の提案
- ◆各施設ごとにトイレの設置
- ◆各施設の単独利用を考慮する
- ◆職員が利用しやすいバックヤードの設置
- ◆エントランスから一望できる動線計画
- ◆一般の来庁者や町職員の動線を分離
- ◆大断面集成材を利用した開放的な空間デザイン
- ◆間伐材等の木材利用のぬくもりある内部空間
- ◆外部通路に屋根をかけるデザイン